

平成24年度第1四半期業績説明資料

平成24年8月

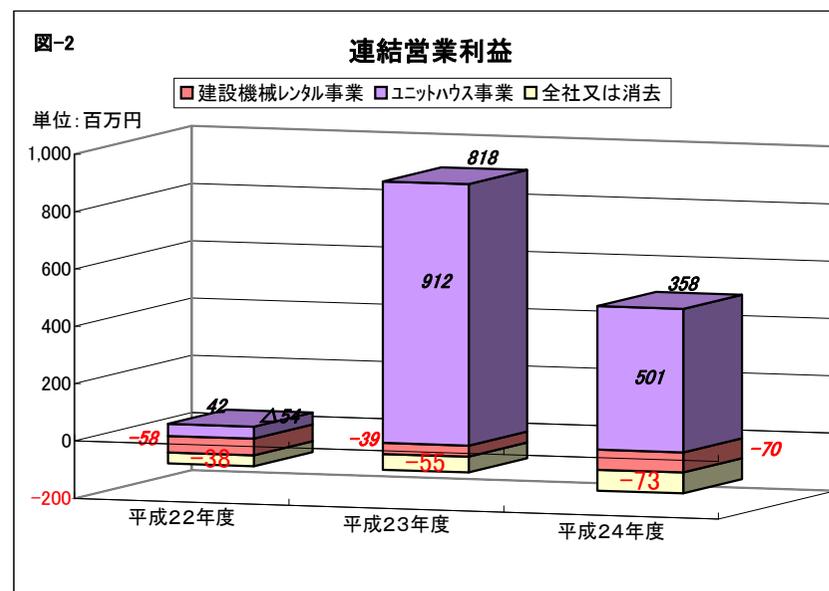
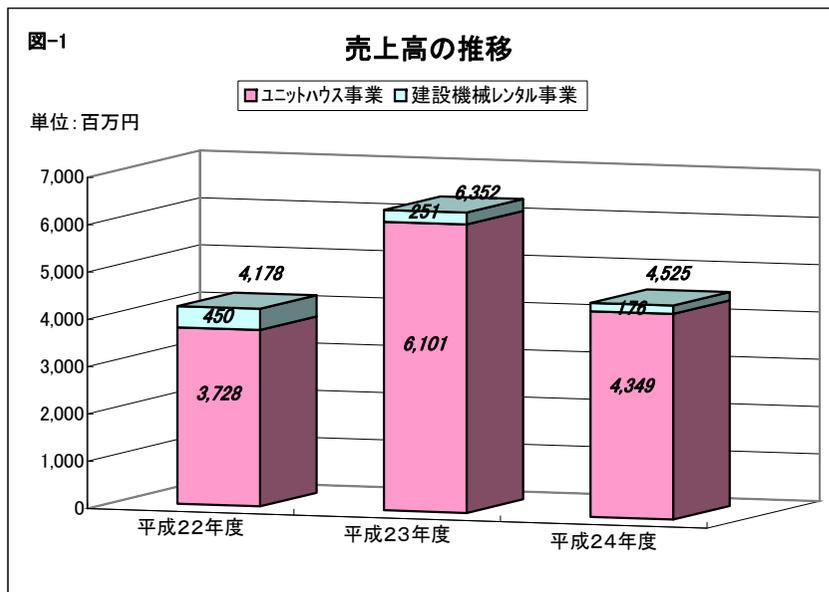
株式会社 **ナガワ**

平成24年度第1四半期の概況

● 建設市場全般

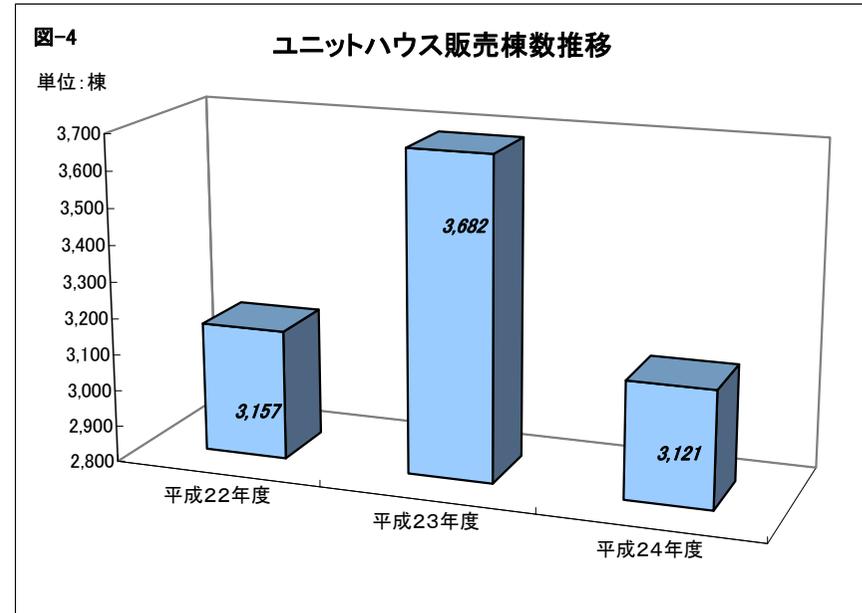
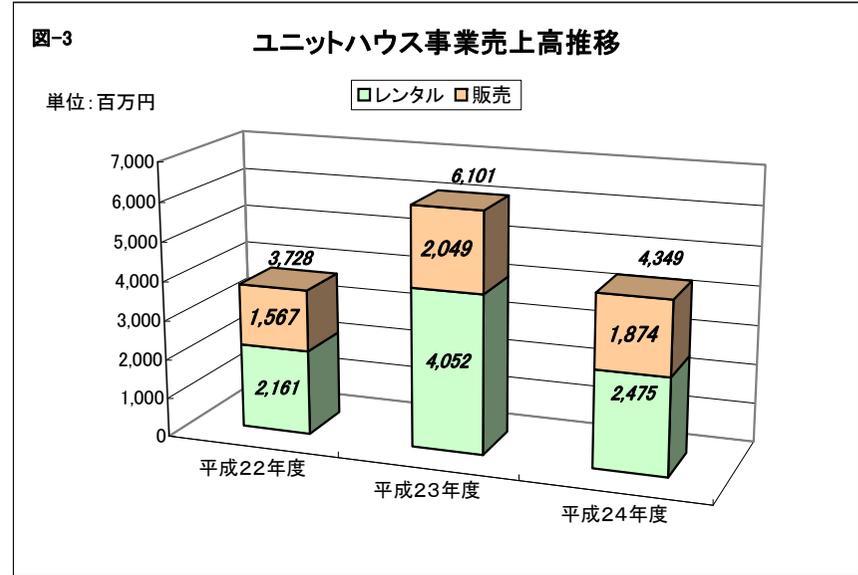
今期に入り、建設市場は、全般に民間・公共とも堅調に推移している。

住宅着工戸数 → 2月以降4ヶ月連続前年同月比プラス
 民間建築(非居住用) → 4月以降2ヶ月連続前年同月比プラス
 公共工事(大手50社調査) → 1月以降5ヶ月連続前年同月比プラス



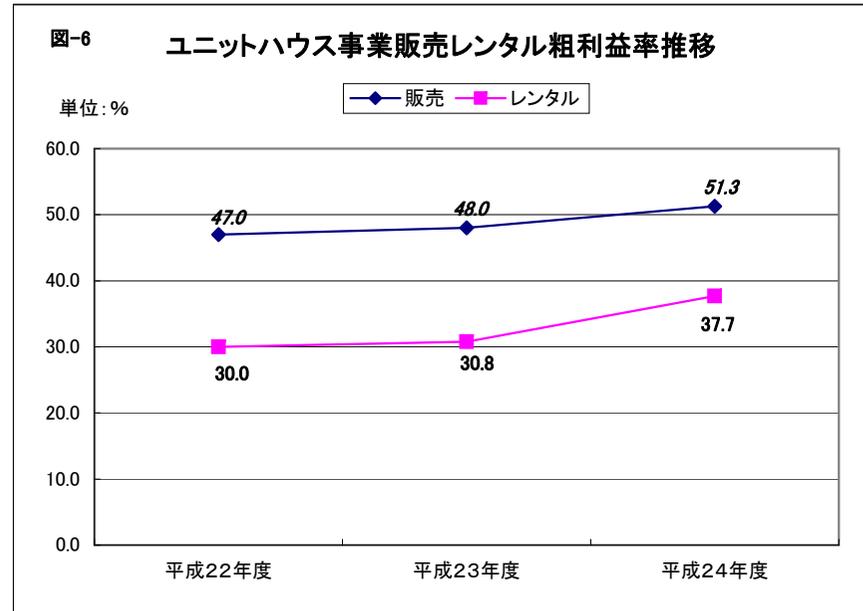
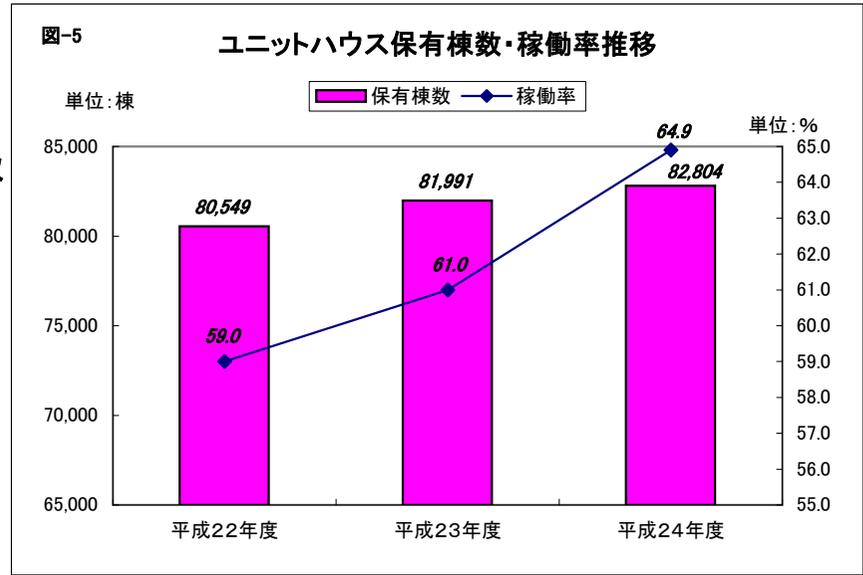
● ユニットハウス販売

新棟販売・プレハブ販売が、大型物件中心に前年を上回って推移したものの、前期販売で計上した応急仮設住宅売上(1.9億円)の消失と中古販売減により前年を下回った。
 尚、中古販売の減少は一時的なもので、第2四半期以降は回復する見込みである。
 また、プレハブ販売については、豊富なネタ・受注を抱えており、第2四半期以降もさらに売上に寄与していく見通しである。



● ユニットハウスレンタル

レンタルは、数量・単価とも堅調に推移し、粗利益率が大幅に改善したものの前期レンタルで計上した応急仮設住宅工事売上(18億円)がなく、大幅な減収となった。



● 建設機械レンタル事業

レンタル単価は、同業他社の東北シフトによる需給改善で持ち直しているものの北海道南部の建設需要減少に加え、前期後半に実施した貸与機械の更新投資により償却負担が増加し、大幅な減収減益となった。

図-7

建設機械レンタル事業
販売・レンタル各売上高推移

単位：百万円

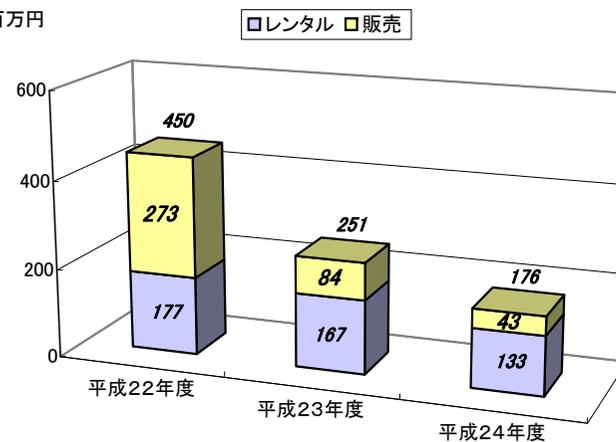
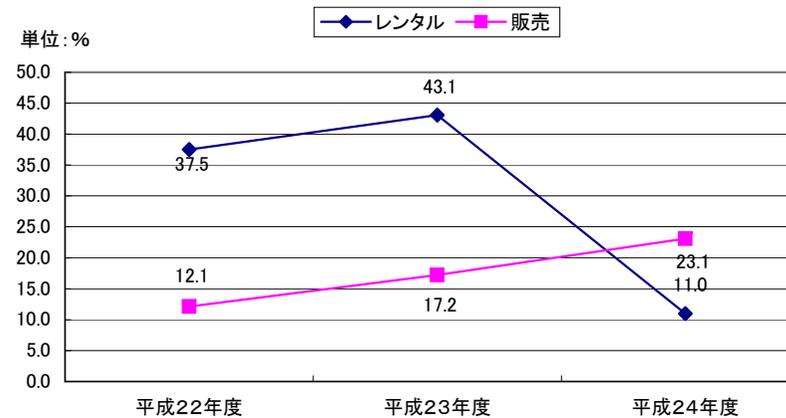


図-8

建設機械レンタル事業販売・レンタル粗利益率推移

単位：%



● 設備投資

第1四半期は不需要期につき、貸与資産の投資は殆ど行われていないが、前期後半に実施した貸与資産投資により、償却負担は前年同期を上回る結果となった。
尚、貸与資産の需要は強く、第2四半期以降の設備投資は前年を上回る見通しである。

